

Gikyohan Times

No.0005

岐阜県教販通信

2020年10月発行

岐阜県の学校現場の皆さんと考える 「コロナ後」の教育

当社は岐阜県の全小中高校に紙の教科書を供給し続けて100年以上の会社です。今後紙の教科書、教材、指導書がデジタルに変遷していく、教育のITC化、オンライン化していく中、当社として教科書に関する様々な情報を「岐阜県教販通信」として提供していきます。今回のテーマは「コロナ後」の教育の第四弾として引き続き寺脇研氏に提案して頂きました。是非ご一読くださりコロナ後の教育に役立てればと思います。今後とも岐阜県教販通信をよろしくお願いいたします。通信のバックナンバー及び教科書情報は→<http://www.gifukenyohan.co.jp> をご活用ください



寺脇 研 氏

寺脇研(てらわき けん、1952年～)元文部官僚。星槎大学大学院教育学研究科客員教授。官僚時代には文部省NO.1の論客でなし、ゆとり教育の広報を担った。福岡県福岡市出身

去る9月22日(敬老の日)、「未来の教室」オンラインキャラバン×GIFUがネット上で開催された。本来、岐阜県内でやるはずのものが、コロナ禍のためにオンラインでの実施になったのである。当日は、岐阜県の先生方も多数参加されたことと思う。この通信の前回でも述べた通り、「未来の教室」を提唱している経済産業省は、文部科学省が進めるGIGAスクール構想を積極的に支援してきた。その結果、全ての小中学校に児童生徒1人1台の学習者用PCと高速ネットワーク環境などを整備する5年計画が、コロナによるオンライン授業の必要性とも相まって、今年度中に実現しようとしている。なんと、4年もの期間短縮である。その結果、日本の学校は新しい局面を迎えるだろう。だが、無闇に慌てる必要はない。「未来の教室」が目指すEdTech、個別最適化、文理融合(STEAM)、社会課題解決といったキーワードは、言葉こそ馴染みがなく耳新しいものの、これまで文部科学省が進めてきた教育改革の方向と同じ性質のものなのだ。92年実施の指導要領による小学校の生活科や93年実施の指導要領による中学校の選択科目の導入に始まり、情報教育の強化、総合的な学習の時間、習熟度別授業の実

施、プログラミング教育など、この30年近くにわたりやってきたことの数々は、どれも「未来の教室」へ向かうものだった。EdTechに対応できるよう情報系の教育を進めてきたし、習熟度や児童生徒の興味・関心、能力・適性といった個性重視の考え方は個別最適化であり、総合的な学習や探究型学習は、文理融合(STEAM)、社会課題解決につながる。IT化や新しい用語の登場に浮き足立つ必要はない。これまで積み重ねてきたものを発展させていけばいいのである。オンラインキャラバン×GIFUでは、早川教育長自身により岐阜市の教育が語られ、県教委の堀教育次長によって県立高校の取り組みが紹介された。また、飛騨市の沖畑教育長からは、「飛騨市学園構想」が披露された。いずれも、岐阜県におけるこれまでの教育活動の質の高さを感じさせる。発表を見ていて、これまで教育現場で進めて来られた努力の数々が着実に成果を挙げていると思い、心強かった。

たしかに、GIGAスクール構想の実現によりPCが大幅導入され、オンラインのみならず授業でも使用が広がるだろう。しかし、明治以来150年近くかけて築き上げてきた紙の教科書、副教材やさまざまなリアルな教材を使った授業の技術や成果の蓄積が不要になるわけではない。それらの役割も欠かせないはずだ。

また、学校教育の＜手段＞がPCによって一部変化したとしても、これまで取り組んできた教育の＜目的＞が転換されるわけではないのである。重要なのは、＜手段＞でなく＜目的＞であることを忘れてはならない。